



自分らしさを取り戻す！ ～S様と職員の挑戦～

介護付有料老人ホーム ヴィラ梅光

看介護課 主任 : 松井 美穂
生活相談課 : 浦郷 順一

令和7年9月7日（日）



◆はじめに

令和元年9月からヴィラ梅光にお住まいのS様。

- ・当時、要介護状態であった奥様と共に入居。
- ・杖歩行であり、買い物・掃除・外出等、全て自立。
- ・令和6年3月頃から急激な下肢筋力の低下が起こり始め、6月頃には車椅子での自走移動となる。
- ・7月介護認定を受け要支援2の判定。
- ・更に介護量増加し介護区分変更申請を行い令和7年2月要介護4。

S様がご自分の状態変化と向き合いながら“自分らしく”暮らす事を諦めない日々をサポートした記録をここに報告する。



◆ S様のプロフィール

S様（89歳 男性 要介護4 **認知症診断なし**）

日常生活自立度：B2 162.5cm 56kg



◆既往歴：脊柱管狭窄症・神経痛・虚血性心疾患
脱肛・左眼の全層角膜移植術歴あり。

◆家族構成：妻（要介護5）、娘、息子

◆来歴：福岡県嘉穂郡碓井町（現嘉麻市）。高校生以降は福岡市に居住。父親が麻生グループで働いており、中学生までは飯塚や嘉穂郡近辺の引っ越しが多かった。26歳で結婚。

◆職歴：済生会病院にて理学療法士を65歳の定年まで勤められ、その後も78歳まで在籍し週に2回出勤していた。

❖ 入居から令和6年1月頃までのS様

非該当で入居され、
生活は殆ど自立。
一人での外出も頻繁にされて
いました。



◆ S様のアセスメントの変遷

令和元年9月（入居時）
～令和6年3月頃

- ・ 非該当で入居
- ・ 歩行→独歩、もしくは杖
- ・ 食事、排泄、入浴→自立
- ・ 掃除、洗濯→自立
- ・ 買い物→一人で可
- ・ 外出→一人で可

認知症なし

令和7年2月時点～現在

介護量の増加

- ・ 要介護④（令和7年2月1日～）
- ・ 移乗→スタンディングリフト使用
- ・ 移動→車椅子を手で漕ぎ自走
- ・ 食事→セッティングし可能
- ・ 排泄→夜間はベッド上にてパッド交換。
日中はスタンディングリフト使用しトイレ誘導。リハビリパンツ＋パッド使用。
- ・ 入浴→スタンディングリフト＋ハーブ浴
- ・ 掃除→週に一度職員が実施
- ・ 買物→施設に委託
- ・ 外出→家族もしくは職員付添い

※生活の中で
職員が介入する事は
殆どなかった。



❖ 諦めることが増えていく日々…

令和6年3月から急激
に下肢筋力が低下…

ADL：自立



令和6年7月には要支援2。
その4か月後には下肢筋力のさらなる低下により要介護4に。
入浴、排泄援助は二人介助となる。
介助される事に遠慮と申し訳無さを
毎回訴えられる。

ご家族は協力的で、本人の
意思を尊重されていた。
介助量の増加と共に後ろ向
きな発言が続くようになり
家族も心配を…

性格も元々頑固であるた
め、職員の意見はかなか
聞き入れられない事も
。

『職員に迷惑を掛け
たくない』
『何もできなくなっ
たからここにはお
られん…』

S様の本当の思いは？



自分らしさを取り戻すために

～S様がヴィラ梅光で【安心して暮らす】アプローチ～

ご家族

- ・ 本人とのコミュニケーション
- ・ 施設職員との情報共有

ケアワーカー

- ・ 状態変化に伴うケアの見直し
- ・ スタンディングリフト導入

生活相談員

- ・ アセスメントの実施
- ・ 本人、家族からの生活相談

- ・ 納得するまで自分の体と向き合ってもらう
- ・ 自分で出来る事と介助が必要な事を整理
- ・ 職員に対しての申し訳ない気持ちの軽減

医師・看護職

- ・ 医療ニーズへの対応
(脊柱管狭窄症、脊髄のヘルニア、脱肛に対するアプローチ)
- ・ 福祉用具の検討

ケアマネージャー

- ・ 介護認定の申請
- ・ 状態変化に伴う区分変更の申請
- ・ 本人、家族からの生活相談

栄養管理課

- ・ 本人の扱いやすい食器類の検討

⇒S様がヴィラ梅光で暮らす上で、何が大切かを考える！

◆ 自分らしさを取り戻すために

S様は、職員が毎日“抱える介助”を行っている事を
申し訳なく思われていました。
令和7年の1月頃には足の力は殆ど無くなっており、男性職員しか抱えられない状態に。
更に、腰痛を訴える職員もチラホラ…。
無理な介助を行う事で、S様の足には傷が出来てしまう事も…。

それまでスタンディングリフトは電動の2種類を試していましたが、どちらもS様には使用できませんでした。

S様にピッタリ!!

でも、諦めたくない…

今まで試していない
リフトを使ってみよう!



介護リフトスマイル
Cタイプ

- ①車いすやベッドからトイレ・浴室への移動介助に最適
- ②手動式で軽くリフトアップ可能

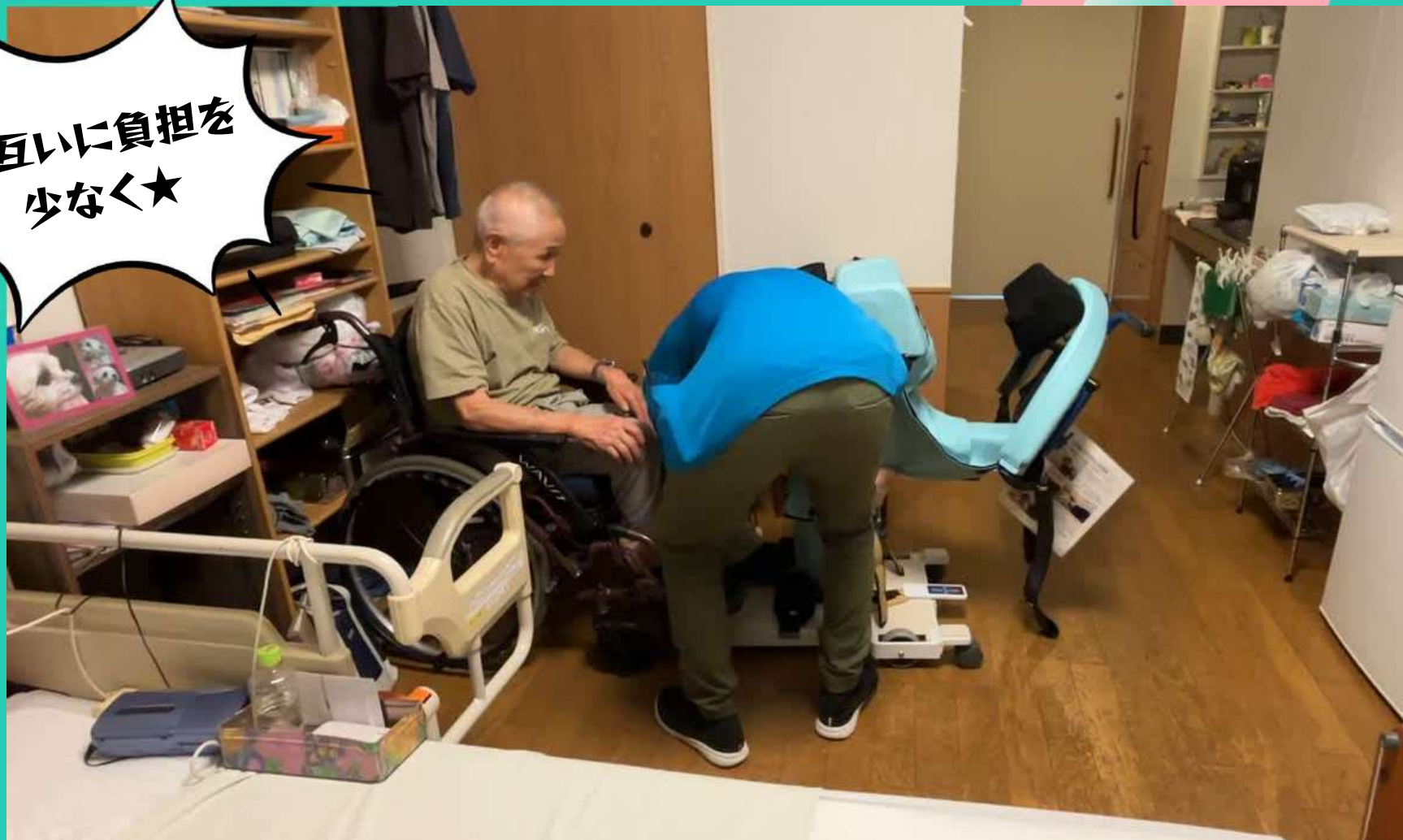




リフトを活用した暮らし

移乗

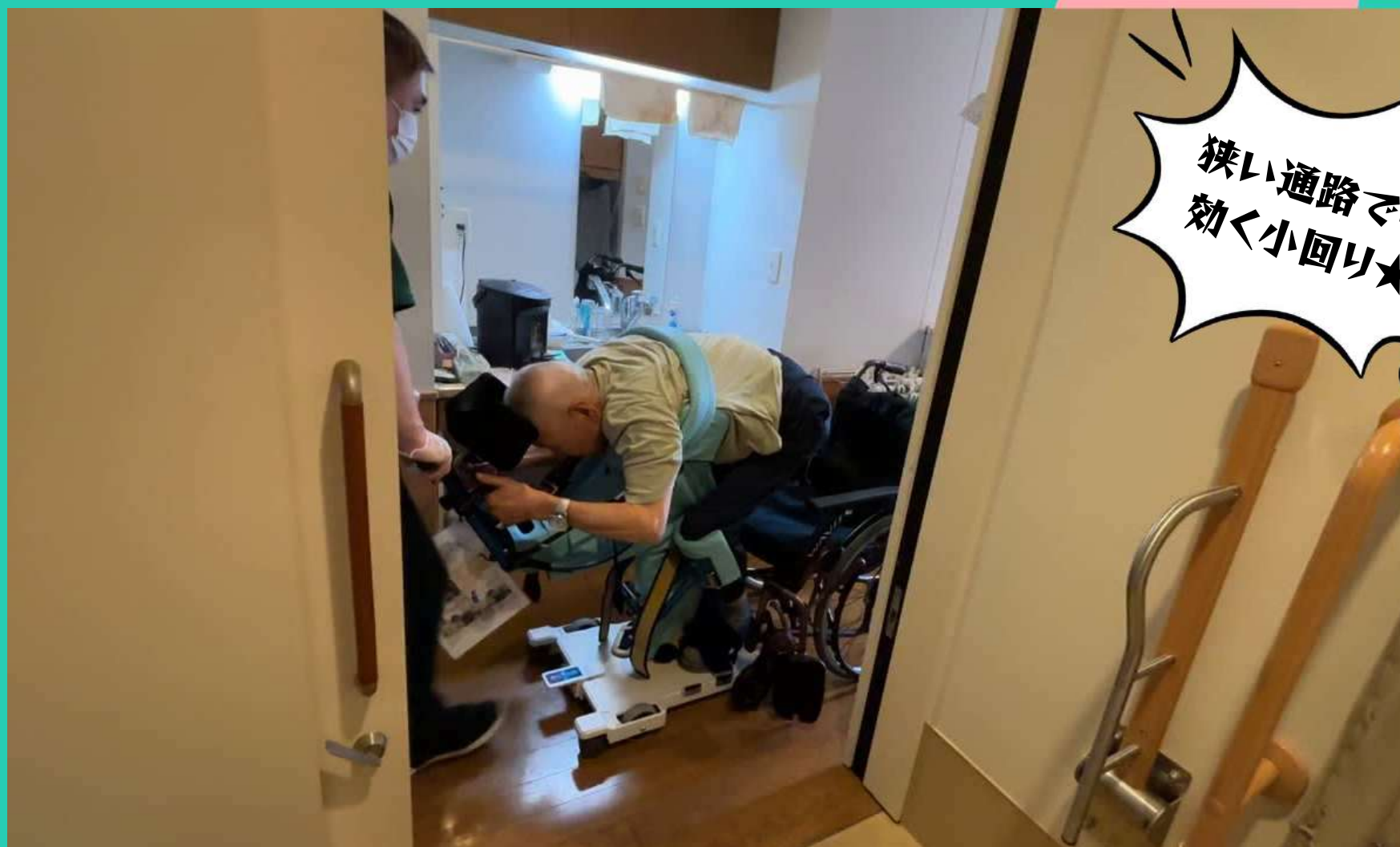
お互いに負担を
少なく★





リフトを活用した暮らし

排泄



◆ リフトを活用した暮らし

入浴



お風呂
サイコー★



❖ 現在のS様の日常

午前はフロアを自走運動。
午後はナンクロ！

毎日の日課、ナンクロ★

起床：4時45分。洗面と体操。

日中：トイレ・入浴・移乗は職員がリフト対応。

用件の際はナースコールあり。

施設内は自由に過ごされている。

就寝：自分で就寝の準備を行い19時頃ベッド
臥床。

施設内は自走！

屋上散歩♪

図書室で新聞チェック★

毎朝 早起き！
上半身の体操も日課♪

頭も体も心も
リフレッシュ！





さいごに

以上がS様と私達ヴィラ梅光の職員が歩んできた1年間です。
ここでお伝えし切れない事もたくさんありましたが、今の生活スタイルの形が出来てからは、次第に後ろ向きな発言は言われなくなり、本来のS様らしい明るい言葉がたくさん聞かれるようになりました。
各職種がS様の急激な状態変化を受け止め、本人自身に前向な気持ちで暮らしてもらうために、一丸となって歩んだ一年だったと思います。

去年の7月には、「なんも出来んようになってしまった」「他の所に行く」「迷惑をかけるからここにはおられん」と毎日のように言っていたS様から、今年の2月。「ここで出来るだけ長く住みたいというのが、本音です」と聞いた時は、S様と職員の頑張りが実を結んだ瞬間でした。

どれだけ急激な状態変化が起こっても、ご本人や家族と向き合い、専門職としての視点を持ち、暮らしを支えることを忘れてはいけないと思います。

S様にそのことを改めて教えていただいた濃密な一年でした。

謝辞

今回の発表において、快く協力をしてくださったS様とS様のご家族へ心から感謝を申し上げます。
今後も自立・自律した生活をサポートしていけるよう職員一同努めてまいります。



ご静聴ありがとうございました！

